

第1回哲学の道デザイン検討会議 摘録

日時：令和6年10月7日（月）午後2時～午後4時

場所：京都市役所 分庁舎4階 第4会議室

次第

1 開会

- (1) 開会の挨拶
- (2) 委員の紹介

2 議事

- (1) 哲学の道の概要について
- (2) 今後について

摘録

【事務局説明】

哲学の道の概要や今後について、事務局から説明。

〈A委員〉

ただいま事務局より御説明がありました。哲学の道の路面のデザイン等について、自由に発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

〈B委員〉

1点目はここ数年の暑さです。桜の木は、地上から概ね30cmのところから80%から90%の根が張るそうですが、京都市は全国的にも有数の暑い街になっており、桜には大変なダメージだと思っています。

2点目は土の道の優位性です。舗装に比べると表面温度が低く、桜に対するダメージも少ないのではないのでしょうか。また、アスファルトのように蓄熱しませんし、夜間は冷え、打ち水をすれば直接水を吸い込み冷えてくれます。土埃は大きな問題ですが、これを低減する商品もあるようです。保水性の舗装や遮熱性の舗装も存じておりますが、黒いアスファルトに比べてベターということであって、やはり土の道の優位性はあるのではないかなと考えております。

3点目は哲学の道のことですが、桜の木陰があって涼しく歩行者の足にも優しい道であります。この地道を求めてわざわざペットを連れて散歩をしている方をよく見かけますし、ゲンジボタルも飛んでいるきれいな水の流れる道ではないのでしょうか。

4点目は京都人についてです。1200年の古都であり、そこに住んでおられる京都人と言われる方ですが、以前テレビで祇園祭の鉾町の役員さんが「400年先もこの祭りが盛大

に行われてほしい」と言われていました。また、老舗の京の扇子屋さんは「100年先、1000年先にこの京扇子の美しさを残す」と言われており、大変長いスパンで物事を考える人たちが京都の人たちなのかなと感じております。

5点目は哲学の道です。東山の山裾を縫うように流れている疏水分線があり、その川に沿って作られた静かな散歩道です。1890年に疏水分線ができて、2040年で150年になります。その京都人の心意気に学びまして、哲学の道はこれから100年先、200年先を考えてどのような道を残していくのかという風に考えていただきたいと思っております。

6点目は日本の道100選に選ばれているのは、京都府内で「哲学の道」と「天橋立」の2件だけだということです。客観的に特別な道と考えるべきではないかと感じています。

7点目は100年先、200年先に向かってきれいに整備され、水たまりもなく、土埃も少なく、桜の木陰が涼しい陰影のある道、風情のある道を残していきたいと感じています。

8点目です。左京土木みどり事務所さんは道路だけでなく、公園も管理しておられます。先日事務所にお伺いしたのですが、2階に上がっていくと大変多くの職員の方が上下作業服を着られて熱心に仕事をしておられました。その姿をみて、専門家の集団の方だなという思いを強く持ちました。疏水事務所も同様です。この方たち職員の皆さんは、「100年先、200年先に残すべき特別な道」、「よく整備された土の道」というような目標さえ定まれば、良い知恵をいくらでも出してもらえると信じております。また、様々な行政指導についても同様です。宅急便や新聞配達の手、バイクも走っております。しかしそれは限られた営業所でされておりますから、そういうところに対する行政指導や、色々な啓発をやっていただければ、きれいな土の道が維持できるのではないかと感じております。

最後に、京都の人たち、日本の人たち、それから全世界の皆さんの鑑賞に堪えるますます立派な道にして子孫に残していきたいと考えております。

私たちは祇園や上七軒、植物園の西側の半木（なからぎ）の道など色々な道を調査しております。半木の道は、枝垂れ桜の大変きれいな地道になるのですが、雨の降った直後に行っても水たまりもできていない本当にきれいな状態でした。一つの理想の形かなと感じました。

哲学の道のソメイヨシノの自根発生について2000年に東京農業大学から出版された本に掲載されていますが、今2024年ですから、ここに書かれている状態からさらに進んでいるのかなと懸念をしております。

京都地裁のところの枝垂れ桜に関するものでございますが、実は哲学の道の桜も弱っており懸命に耐えているのではないかと心配しております。

京都市が今年の夏に実施した「街路樹への水やりのお願い」（2024年8月1日付け京都市情報館）では、皆様ができる範囲で街路樹への水やりの協力をお願いしますという内容です。こういった啓発活動を哲学の道に対してもしていただければと思っています。

今回の検討会議の日程に、委員の皆さんと一緒に現場視察の日程をぜひ入れていた

だきたいと思っております。半木の道についてもいいなと感じましたので、その2か所をぜひ視察検討に入れていただけないかと思っております。また、今回は傍聴者の定員が6名になっておりますが、例えば第三錦林小学校などの広いところで会議を開催し、たくさんの方に傍聴してもらえるようにしてほしいという要望でございます。それから、本会議の摘録ですが、概要版で結構ですのでホームページだけでなく紙媒体でも出していただければと思います。

〈A委員〉

先ほど桜への影響という御指摘がありました。樹木管理は、樹齢や虫の影響、水の集水域など様々な要素を複合的に検討する必要があり、過去に私がアドバイザーとして携わったものでは、専門家の樹木医の方に木の根の状態を診ていただいたこともあります。

舗装の構造については国が定める基準等がありますので、それと照らし合わせつつ、経済性にも配慮する必要がありそうです。

賀茂川左岸の半木の道は、車が通らない歩道ですので地道ですが、逆に河川管理用道路として車が通る右岸側は、水たまり、凸凹、自転車や歩行者への配慮から、近年樹脂系の砂を入れた土色の舗装に整備しています。また階段のスロープのところは、通常のアスファルトの中に粒をたくさん入れて自然な道に見せています。現場視察という御要望がありましたが、機会がありましたらそれらも参考にしつつ、御要望のある様々な問題を全て100%解決とはいかないかもしれませんが、それぞれの問題がうまく解消できるような方法を議論していければと思います。

〈C委員〉

昨日6か月ぶりに哲学の道を往復してきました。車椅子の方、白杖をつけておられる方にはお会いしませんでした。観光客の方はやっぱり多いです。大豊神社以北の地道で数か所あった水たまりは、砂で埋められた所もありました。全体的に、ごみ1つない状態でした。

横断歩道に点字ブロックがありますが、四条通などには景観に配慮したものもあります。例えば、哲学の道では、消防署から上がるところは道幅が少し広いので、その箇所だけでも、自然に馴染んだ色で点字ブロックが必要だと感じました。地元の方の声、ライトハウスの方や盲学校の方にも御意見を聴くなどして進めてもらえたら嬉しいです。

〈A委員〉

点字ブロックの件ですが、一般に整備の延長や色など判断に悩むことが多いように思いますが、現状はどのようになっていますか。

〈事務局〉

必要に応じて縦断的に設置しているケースもありますが、現実的に点字ブロックは横断歩道にのみ設置しているケースがほとんどです。色彩については、基本的には黄色を使用していますが、場所によって景観に馴染むものも使用している状況です。

〈D委員〉

御蔭通～東鞍馬口通の疏水沿いは、今は非常に綺麗に桜並木がありますが、今の状態になったのは、約50年前の1970年頃からで、それ以前疏水は土手でありました。その後、疏水が整備されまして、石垣になり道路が広がった部分に一部遊歩道を備えていただき、非常に散策しやすい遊歩道になっております。

今年は特に多いように思いますが、遊歩道は木が茂って落ち葉が非常に多く、私たち役員は定期的に掃除をしております。アスファルト上の落ち葉の掃除は非常にしやすいですが、砂利道は掃除がなかなか行き届いておらず、雑草も生えております。

砂利道はやはり雨が降った後は凸凹しますが、そのような難点を改善するため水を吸い込み、景観に配慮した舗装も最近はあると聞いています。

桜の寿命は50年と言いますが、自根が出ているようなものはしっかり年月が経った古いもので、アスファルトの関係ではないと思います。

京都には色々と桜の名所がありますが、やはり哲学の道はきれいだと思いますし、何とかこの景観を尊重して検討してほしいです。

ただ生活していくうえでは砂利道は色々と問題があるのかなと感じますし、景観と機能に配慮した舗装の研究はされていると思いますので御検討よろしく願いいたします。

〈A委員〉

ありがとうございました。皆様方が、今後もボランティアなどで落ち葉清掃等をしやすいような形も検討していく必要があると思います。

〈E委員〉

私は考え事をしながらゆっくり散歩するのが好きで、周りの自然の風景、鳥のさえずり、風で木の葉がこすれる音、足音などが調和した哲学の道は特に好きです。素人目線ですが、市民の素直な気持ちとして、哲学の道への想いなどを大きく3点お話させていただきたいなと思っています。

まず私がこの会議にあたって、哲学の道をどのような場所にしたいかと考えたときに、様々な主体の方、様々な立場の方が、色々な目的を持って集える場所にしたいなというのが大きくあります。私のような1人で黙々と歩いている方や、家族連れ、ゆっくりみんなでお話しながら歩いている方、外国人観光客の方、そして、私が哲学の道を訪れた際にいらっしゃった車椅子に乗られている方、ベビーカーを押されている方、杖をつけて歩いている方、

みんなにとって歩きやすい道になってほしいなと思います。また、その道のすぐそばでは住宅があって生活が営まれているという点で、地域住民の方が慣れ親しんだ風景というのももちろんありますので、大きく変化を加えるよりも、地域の方が慣れ親しんだ風景を保ちながら、いいところを残しながら、歩きにくさなどの改善ができたならなと考えております。

2つ目の思いといたしましては、道路の景観に関してもう少し改善ができたらいいのかなと思います。舗装された道の中にポツポツと黒い舗装の補修跡があって、継ぎ接ぎのような状態になっているところが景観として気になりました。また、砂利区間が少し歩きづらいという御意見も多いので、砂利道はそのまま残すのか、全部舗装するののかという両極端の話ではなく、それぞれがいいところを残しながら、折衷案というものをうまく考えていけたらと思っています。

最後に、重複するところもありますがやはり道が歩きづらいなと感じるところが多々ありましたので、もう少し歩きやすい道になるように検討していきたいなと思っています。砂利区間のところでは大きな石が自分の足の裏に刺さるような感覚も感じました。また先日、雨上がりの日に現地に行ったのですが、道幅いっぱい大きな水たまりができていて箇所がたくさんあったのでそこもすごく気になりました。あとは、地面が少し隆起しているところもあったので、杖をついている方や車椅子の方、ベビーカーの方などに配慮し、改善できたらなと思っています。

色々な人が色々な目的を持って集える場所にしたいなということ、そして道の景観を美しくしたいなということ、そして道を歩きやすいようにしたいというこの大きな3点をもって私からの意見とさせていただきます。

〈A委員〉

ありがとうございました。舗装修繕で色が異なったり素材が異なったりするとどうしても景観が損なわれてしまいますので、今後のメンテナンスの方法も課題として検討する必要があります。また、舗装の方法には、砂利や真砂土舗装、通常のアスファルト舗装や半たわみ性舗装など色々ありますが、それらが対比、対立しているのではなく、それぞれのメリットを組み合わせた折衷案的な技術がないのかという御指摘だったと思います。これは非常に重要なことで、この検討会議の中での今後の議論に必要な観点と思っています。

〈C委員〉

本整備事業は、何年ぐらいを目安に、何をしようと考えていますか。

〈事務局〉

できるだけ早い時期に実現したいと思っていますが、本会議で御意見がまとまっていない現段階で具体的な内容はお示しできません。

〈C委員〉

市電の敷石を再利用していると思いますが、あのような形で不要になったものを廃棄せず、活かさないかと考えています。水はけの問題などもあると思いますが、当時、敷石が再利用されたように、何か再利用できないことがないか考えていただきたいです。

〈A委員〉

京都市財政もなかなか厳しい中で、再利用できるものは活用するといった予算上の配慮も必要ですね。

〈C委員〉

また、工事中の粉塵等による沿道住民への影響も心配です。

〈事務局〉

可能な限り沿道の皆様に御迷惑をお掛けしないよう考えています。

〈B委員〉

今の哲学の道の土の部分の状態はいいと思っていないです。雨の後の水たまりですとか、バラスが飛ぶとか、車椅子の方が危ないなど、色々あります。今のままの土の道がいいということではなくて、もっとより良い整備ができるのではないかと考えております。

大きな観点で見れば、土の道の優位性は確かにあると思うので、新しい地道、新しい土の道の整備を考えています。

また、半木の道と同じにすればいいとも思っていないです。向こうは維持管理用の2トン車や軽トラックが頻繁に出入りしています。哲学の道は生活道路でもありますから、様々な車が走っておりますが、徐行しながら走っておられますし、土の道の問題点を解決する方法があるのでないかと考えています。

例えば土埃を低減する商品もあります。哲学の道は特別な道であるということを改めて認識していただき、様々な商品活用や行政指導をしながら、半木の道のような雰囲気にならないかと考えているところです。

〈A委員〉

先ほどの商品は土系舗装だと思いますが、車道にも使用していますか。駐車場など車の通行できる部分に使われているものはありますが、車道には使えないという商品が多いようですが。

〈B委員〉

グラウンドや未舗装の歩道への事例があるようです。

〈A委員〉

調べてみますと、公園などで使用されるグラウンド舗装材、土系舗装と言われるものの製品ですね。車道には使えないので、このイメージが出せて車道にも使えるものを探すのも一つの方法かもしれないですね。

〈F委員〉

今回、路面のデザインを周辺景観との調和を踏まえて検討するという内容の中で、色々な要素が出てきたのかなというふうに聞いていました。哲学の道は、銀閣寺などの文化遺産、疏水側の樹木、交通規制、沿道店舗の様式の変化、疏水の歴史などが基礎となっています。昭和45年の整備時に比べて、デザインの可能性は高まっていますし、広く可能性を検討・共有しながら、哲学の道の価値を最大化する具体的な解決策について、デメリット・メリットを踏まえて考えていくことが重要だと思います。

また、舗装の劣化に対するお話もありましたが、舗装を経済性にも配慮しながら持続的に機能させていく、道路管理者が負う管理責任の部分もしっかり踏まえる、ということも議論することが重要かと思っています。

〈A委員〉

専門的な見地からの技術・事例収集も必要です。地道系舗装や石畳風舗装とか、工法を選ぶことも大切ですが、それだけで解決するものではなく、そこからどういう風に現場に合わせてデザインしていくかということも大切だと思っています。

〈G委員〉

既設舗装部分では、継ぎ接ぎのような補修跡、少し舗装が掘れたところ、埋設管工事の跡が目立ったり、細かな舗装骨材が削れたりしています。砂利道部分では、沿道住民が土埃の掃除など毎日大変な思いをされています。自転車、スクーター、歩行者、外国人観光客など、多くの方が通行します。哲学の道にふさわしい色というのは必ずあると思いますので、学識経験者の方に検討していただきたいです。水はけの良い舗装、温度上昇を抑制する舗装、無電柱化なども検討してほしいです。

〈A委員〉

無電柱化について、事務局いかがでしょうか。

〈事務局〉

無電柱化できれば素晴らしい景観になると思うのですが、現在、哲学の道については計画がなく、今後の課題とさせていただきます。

〈H委員〉

洗心橋以北を散歩することが多いのですが、概ね舗装されているのでとても歩きやすいです。ただ、凸凹、埋設企業者の掘削復旧跡、補修跡の色合いが気になります。既設舗装の色に合わせて補修等はできないのでしょうか。

〈事務局〉

様々なケースがあるので一概には言えませんが、埋設企業者が舗装を復旧する際は基本的には同じ色の舗装で復旧するよう指導しています。また、日常の維持管理の中で、緊急的・局所的に補修する際は、安全性や経済性を踏まえて、やむを得ず一般的な黒色の材料で補修しております。

〈A委員〉

非常に重要な内容かと思えます。同じ自然色系と言っても、地道舗装系の土の色（YR系の茶色っぽい色）なのか、石畳風舗装のような無彩色（灰色・白黒系で石の粒が見えるようなもの）なのかで、イメージが変わってきますし、小規模な補修時にも対応できるよう検討する必要がありそうです。

〈I委員〉

砂利道はきれいですが、コンクリート部に砂利が飛び汚く見える、自転車はまっすぐ走れない状態で、足の悪い方は大変だろうと思っています。大豊神社付近では一部舗装されており、自転車は走りやすいです。砂利道で車が通行できる場所では、駐車場もあるため路面の状態が悪いです。

哲学の道から真如堂や京都タワーなどの景色を楽しみながら通行していますが、水たまりなどがあると、景色を楽しむのを忘れてしまうことがあります。

疏水側に地道があるので大丈夫だろうとは思っていますが、舗装すると桜に影響が出ないかと心配しています。

〈J委員〉

砂利道を残しつつ、車椅子が通れる幅の舗装をすればどうかと思いました。哲学の道は通学路にもなっています。砂利道は自転車が通りやすく、前後にお子さんを乗せておられるお母様方は特に感じておられるのではと思います。

一方、昔からの砂利の風情を大事にされたい方も多いです。水はけがよく、砂利が散らない、新たな技術がないものかと思っております。

最近、水たまりがある道は哲学の道以外にほとんどないです。子供が水たまりをジャンプして遊ぶとか、水たまりに映る緑や空を見るとか、そのような光景があってもいいのではと思うこともあります。

〈A委員〉

ありがとうございました。以上で、全ての委員の皆様から御意見をいただいているところですが、他に御意見ありますか。

〈B委員〉

第二寺ノ前橋から北の未舗装部分は、凸凹があり、水たまりもあります。若王子橋から大豊神社にかけては、比較的平坦だと思います。

石畳風の舗装や、御影石のような舗装など、色々な現場を見てきましたが、どれも哲学の道に合うものではないように思います。石畳風の舗装は経年劣化していると思います。水たまりや、砂埃などの問題のない、新しい土の道を模索していただきたいです。

〈A委員〉

擬石の舗装（例えば石畳風の舗装）の材料は、主に石と着色されたモルタルです。石は、本物の石なので経年劣化で擦れてしまっても見た目が変わることはないですが、モルタルの部分は長い年月の中で色目が変わり、石とのバランスが悪くなっていくことも考えられますので、モルタル部分の色は最初にきちんと考えておく必要があります。

例えば、岸和田市役所付近で、先ほど申し上げた石と着色されたモルタルで整備した事例があります。車道ですが、モルタル部分に茶色の顔料を混ぜて徹底的に色を調整し、きれいに石を出したうえで、周辺景観に馴染む、きれいな地道風に整備した事例です。

様々な事例を集めながら、今後議論を深めていければと思います。

〈C委員〉

若王子橋から大豊神社あたりまでは未舗装ですが、沿道は空き家になっているものもあるので、手を付けず、そのまま残すことはできないでしょうか。例えば、大豊神社以北を先に整備し、それより南は今後の整備状況を見て判断するということはできないでしょうか。手を入れたことによって、あの場所の現在の景観の良さがなくなってしまうのは残念に思います。

〈A委員〉

道にも色々な考え方があります。道の繋がりはもちろん、スポット的な考え方もありますので、様々な御意見を総合し、検討していけたらと思います。

〈B委員〉

桜については疏水事務所で管理されていますが、現状や維持管理について御説明をいただけますか。

〈疏水事務所〉

年間を通して、除草や植樹管理をしております。桜は寿命が50～60年と言われている中で、把握している420本の桜のうち、状態が良くない桜は7～8割です。道路部分と疏水部分は擬木とロープで分けておりますが、その工事が昨年度に完成し、今年度から桜の植替えに向けて少しずつ進めているところです。数が多いので、現状、細かな計画があるものではございませんが、何十年もかけて桜の植替えを行う予定です。

〈A委員〉

その他、御意見等ございませんでしょうか。

本日は多様な御意見等をいただき、景観、利便性、メンテナンスなど今後検討すべき課題が抽出されました。今後も財政が厳しい中でどのように整備を進めていくのか、真剣に議論していく必要があると改めて感じました。

次回は、皆様方の御意見を基に、舗装のデザインの事例であるとか、事務局の方で取りまとめていただいて、次回の会議でさらに深く議論していきたいと思っております。

それでは第1回会議はここで終了したいと思います。

皆様、本日はありがとうございました。